



得点アップ ITパスポートトレーニング問題集

資格の大原 情報処理講座

・ま・え・が・き・

平成19年12月に「情報処理技術者試験／ITパスポート試験の手引」が発表され、試験制度改革の枠組みが示されました。私たち「資格の大原 情報処理講座」のスタッフは、これを受けて平成20年7月に公表されたシラバスに則り、新しい制度に対応するカリキュラムの開発に着手し、平成20年10月に「はじめてのITパスポート合格問題集（初版）」として発行しました。その後、シラバス改訂や試験傾向の変化に応じて本書の内容も改訂を繰り返し、現在のシラバスに対応した「得点アップ ITパスポート トレーニング問題集」として成果をまとめることができました。

本書とともに上梓された学習書に、「はじめてのITパスポート 合格テキスト&例題」があります。本書は、このテキストに付属・連動しながら、同時に独立した問題集として企画されたものです。

問題の収録方法は、単に過去の試験問題を年次順に並べたのではなく、発表された範囲表に沿ってテーマ別に精査・分類しました。この中で代表的な307問を例題として「テキスト」に収め、その類題である1032問を演習(問題)として本書に収めています。すなわちテキストと本書は、「例題によって合格水準の学力を養成し、演習によって合格を確実にする」という関係にあります。演習だけでも十分に学習・合格に資するものですが、さらに別冊のテキストを併用することによって、基礎力を高められますようおすすめします。

なお、問題を解きはじめる前に、かならずiページの「問題集の生きた使い方は？」をお読みください。試験本番を迎えるまでの時間を有効に使うために、いくつかのヒントが見つかるのではないかと思います。

本書を十分に活用し、ひとりでも多くの方が合格されることを、スタッフ一同、心よりお祈りいたします。

Contents

問題編

Part 1	ストラテジ系	2
Part 2	マネジメント系	118
Part 3	テクノロジー系	196

解答・解説編

Part 1	ストラテジ系	350
Part 2	マネジメント系	435
Part 3	テクノロジー系	487

問題集の生きた使い方は？

演習1-8 □□□

問題No.の右側にある□□□は、たんなるデザインではありません。この問題集を少なくとも3回解いていただきたい、という執筆スタッフの“強い”願いを表したものです。

□□□を、学習の中に有効にとり入れる方法を提案しておきます。

問題集は3巡しよう

1巡目

1. 問題に目をとおし、解答できなかつたら、すぐに答えを確認します。
 2. □に×を入れます→☒□□
 - ① 計算問題は→解説を読みながら、計算過程を追って自分の手を動かす。
 - ② 用語問題は→問題文と解答（符号ではなく正しい語句）をペアで覚える。
 - ③ 正誤問題は→解答と解説を見て、どこが誤っているのかを理解する。
 - ④ 適用問題は→解説を読んで、問題文に示されている手順を理解する。
- ☆ 解説でもわからないときは、別冊の「テキスト」にもどる。

2巡目

- ・ ☒のついた問題だけを、①～④の要領で解いていきます。
- ・ 解けなければ2つ目の□に×を入れます。→☒☒□

3巡目

- ・ ☒☒の問題を解いていきます。
- ・ 解けなければ3つ目の□に×を入れます。→☒☒☒

！試験直前

みなさんは、もうほとんどの問題が解けるようになっていきます。試験の直前対策として、☒☒☒の問題だけを解いてみましょう。

本書の特徴と構成

▶ はじめて学習する人・・・

問題を解いて合格圏内を目指します。iページにあるとおり、もし解答できなかつたら、すぐに答えを確認して、次の問題へと進みましょう。

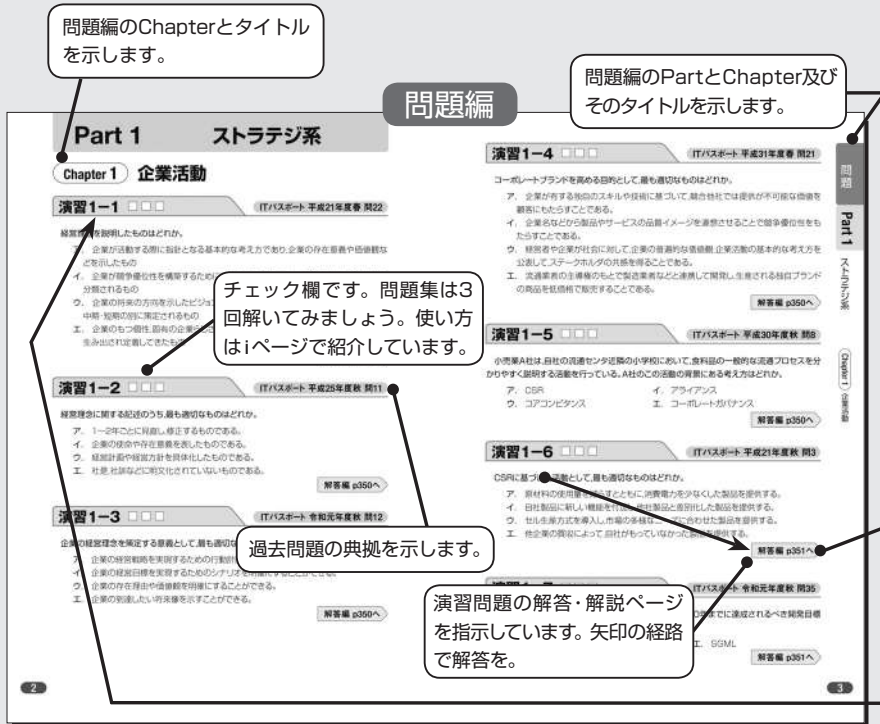
▶ 学習経験のある人は・・・

苦手なテーマが明確な場合は、そのテーマを重点的にトレーニングしましょう。

▶ この問題集だけで十分に合格圏内ですが・・・

体系的に学びたい人は「はじめてのITパスポート 合格テキスト&例題」で基礎から。基礎力に自信のある人はこの1冊で合格を確実に。

▶ コマギレ学習の積み重ねで学力がつくレッスン構成



解答・解説編のChapterとそのタイトルを示します。

解答・解説編

解答・解説編のPartとChapter
及びそのタイトルを示します。

Part 1 **ストラテジ系**

Chapter 1 **企業活動**

演習 1-1 ▶▶▶別冊テキストP.2

解答-ア
イ。経営戦略の説明です。
ロ。経営計画の説明です。
エ。企業文化(経営理念)の説明です。

演習 1-2

解答-イ
ア。経営計画に関する記述です。
ロ。経営戦略に関する記述です。
エ。社員に関する記述です。

演習 1-3 ▶▶▶別冊テキストP.2

解答-ウ
ア。経営計画を策定する記述です。
ロ。経営戦略を策定する記述です。
エ。経営目標を策定する記述です。

演習 1-4 ▶▶▶別冊テキストP.2

解答-イ
ア。コンプライアンス活動の目的です。
ロ。CSR活動の目的です。
エ。プライバシーポリシーが趣旨の記述です。

演習 1-6 ▶▶▶別冊テキストP.2

解答-ア
CSR(Corporate Social Responsibility)とは、「企業の社会的責任」と訳され、企業は利益の追求のみならず、社会貢献が求められる。消費者への製品への配慮、地域社会への貢献などを含め、企業内外のステークホルダーと関係が求められると考えられます。

演習 1-7 ▶▶▶別冊テキストP.2

解答-ア
イ。SDK(Software Development Kit)は、1つのアプリケーションを開発するための必要なプログラムや構成要素とOSやデータベースを意味します。
ロ。SGA(System Global Area)は、Oracle Databaseに属するデータベースシステム全体で共有するメモリ領域の呼び名です。
エ。SQL(Structured Query Language)は、文書の構造や検索を定義するマークアップ言語です。

演習 1-8 ▶▶▶別冊テキストP.4

解答-ウ
PDCAL(計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Act))のプロセスを順次実行し、品質の維持向上、業務効率に結びつける方法です。

演習 1-9 ▶▶▶別冊テキストP.5

解答-ウ
BCP(事業継続計画)は、大規模な災害などによって、企業活動を支える重要な情報システムが障害が発生したような場合でも、企業活動の継続を可能にするために、あらかじめ策定する計画です。
ア。BCPとは一般的な防災計画です。 復旧するまで業務を停止させて

解答の符号はすべてこの位置に。

解説部分には、正解の選択肢を説明したものと、不正解の選択肢を説明したものの2種類があります。なお、1問ごとに独立しているため、同じ主旨の問題や選択肢には、同じ表現の解説をしているものがあります。

別冊のテキストへのフィードバックを指示します。指示ページから例題までが関連する範囲です。

テキスト

Chapter 1 **企業活動**

1 **経営・組織論**

1-1 **企業活動と経営資源**

企業は、多くの人間が共通の志願のもとに有機的に結びついた組織体です。この共同の志願を経営理念(企業理念)と呼びます。企業は、経営理念と人・モノ・情報の経営資源に基いて中長期的な経営戦略を立て、現状を分析し、経営課題を特定して、これに基づいて短期的な経営目標を設定し、経営目標に基づいて経営計画を立案、遂行することになります。

なお、「経営理念として掲げる使命・存在意義」、「目指すべき未来の姿(中長期的な経営目標)」、これらを達成するための「共有する価値や行動規範」をそれぞれ「Mission(ミッション)」、「Vision(ビジョン)」、「Value(バリュー)」と呼び、その総称をまとめてMVPと呼びます。

企業活動は、単に法令や社会規範に遵守しているだけでなく、顧客や取引先・地域社会・株主、従業員とのあらゆるステークホルダー(利害関係者)からの要求に対して、相互協定の基盤の上でこれらに対する価値の創造などによって、適切な説明と積極的なコミュニケーション(情報開示)を行う必要があります。そのようにすることで、コーポレートブランド(企業ブランド)を高め、競争優位性を保つことができます。

また、資力強化と環境への負荷の軽減を図るグリーンITの推進など、環境や社会からの要請に対する社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)を果たす必要があります。さらには、SDGs(国連で採択された、持続可能な開発を達成するために2030年までに達成されるべき17ゴール)、「質を重んずこそう」、「知識をゼロに」、「すべての人に健康と福祉を」、「高い学び・教育をみんなに」などを示すSDGs(Sustainable Development Goals)という社会的な課題に事業を通じて取り組みが必要となります。

なお、社会的貢献を果たすことを企業の存在意義として掲げ経営することなどが経営と呼びます。

例題 1-1 IT(クラウド、半導体製造装置) 問題 問題レベル

CSRの観点として最も適切なのはどれか。

ア。企業が社会的に経済的仕方や環境パフォーマンスを分析し、優れた点を学び取りの入れ込みとなる方法。
イ。企業活動において経済的仕法だけでなく、環境や社会からの要請に特に責任を果たすことが企業活動の向上につながるという考え方。
ロ。企業の経営成果がもつ影響力が正しく行使されるように経営者や取締役が行動。
エ。他社が求めたときのみ自社ならではの価値を提供する柔軟な対応も、企業の中核となる能力。

解説

ア。ベンチマークングに関する記述です。
ロ。コーポレートガバナンスに関する記述です。
エ。コーポレイトンシスに関する記述です。

正解はイです。

演習ドリルを解いてみよう。 別冊 問題集 1-1-7

知識を身につけてみよう

【バリューチェーンモデル】は、価値創造の過程を表現するモデルで、顧客が価値を享受するまでの一連の活動を指します。

①SR(Society Responsible Investment: 社会的責任投資)
説明: 財務的だけでなく、社会的責任への配慮が求められる。 企業への投資を行う

別冊のテキストで学習される方は、この部分で演習問題をさがしてください。

ITパスポートの役割と試験の概要

この欄に掲載する資料は、2007年12月に発表された独立行政法人 情報処理推進機構 新試験制度審議委員会 レベル1試験ワーキンググループによる報告書「情報処理技術者試験/ITパスポート試験の手引」より抜粋したものに加えて、2023年12月時点の試験要綱の一部を追記したものです。

ITパスポート試験の創設について

今や情報技術は我が国の社会基盤になりつつあり、業種・職種を問わずあらゆる企業において、情報技術抜きには企業や組織の活動が語れないほど重要な役割を担うようになってきている。

このような状況の中で職業人として活動していくには、パソコンの操作ができる、パソコンを使ってデータの処理ができるといったことに加えて、情報技術の潜在力を自らの業務に積極的に活用し、どのように付加価値を生み出していくかという視点が、すべての職業人に求められる。職場における問題点を把握・分析し、これを解決するためには情報技術をどのように活用すればよいのかについても理解していることが期待される。さらに、ネットワーク社会において安全に活動するための知識や、企業のコンプライアンス向上に資するための知識を備えておくことなども、これからの職業人にとっては必須である。

このような点を勘案し、職業人として誰もが共通に備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を測るレベル1の試験を新たに創設し、IT人材の裾野を広げることにより、我が国全体の情報技術の活用能力を高めていくことを目指すこととする。

試験の対象者像

対象者像	職業人及びこれから職業人となる者が備えておくべき、ITに関する共通的な基礎知識をもち、ITに携わる業務に就くか、担当業務に対してITを活用していこうとする者
業務と役割	ITに関する共通的な基礎知識を習得した者であり、職業人として、担当する業務に対してITを活用し、次の活動を行う。 ①利用する情報機器及びシステムを把握し、活用する。 ②担当業務を理解し、その業務における問題の把握及び必要な解決を図る。 ③安全に情報の収集や活用を行う。 ④上位者の指導の下、業務の分析やシステム化の支援を行う。 ⑤担当業務において、新しい技術（AI、ビッグデータ、IoTなど）や新しい手法（アジャイルなど）の活用を推進する。

期待する 技術水準	<p>職業人として、情報機器及びシステムの把握や、担当業務の遂行及びシステム化を推進するために、次の基礎知識が要求される。</p> <p>①利用する情報機器及びシステムを把握するために、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、情報セキュリティ、情報デザイン、情報メディアに関する知識をもち、オフィスツールを活用できる。</p> <p>②担当業務を理解するために、企業活動や関連業務の知識をもち、また、担当業務の問題把握及び必要な解決を図るためにデータを利活用し、体系的な考え方や論理的な思考力（プログラミング的思考力など）をもち、かつ、問題分析及び問題解決手法に関する知識をもち。</p> <p>③安全に情報を収集し、効果的に活用するために、関連法規、情報セキュリティに関する各種規程、情報倫理に従って活動できる。</p> <p>④業務の分析やシステム化の支援を行うために、情報システムの開発及び運用に関する知識をもち。</p> <p>⑤新しい技術（AI、ビッグデータ、IoTなど）や新しい手法（アジャイルなど）の概要に関する知識をもち。</p>
--------------	--

試験の構成

①試験時間	120分
②出題形式	多肢選択式（四肢択一）
③出題数	小問形式：100問
分野別出題数の内訳	<p>ストラテジ系35問程度、マネジメント系20問程度、テクノロジー系45問程度</p> <p>総合評価は92問で行い、残りの8問は今後出題する問題を評価するために使われます。また、分野別評価の問題数は次のとおりです。</p> <p>ストラテジ系 32問、マネジメント系 18問、テクノロジー系 42問</p>

配点・採点方法・合格基準

①配点	1,000点満点
②採点方法	IRT（Item Response Theory：項目応答理論）に基づいて解答結果から評価点を算出します。
③合格基準	<p>総合評価点：600点／1,000点満点</p> <p>分野別評価点：ストラテジ系 300点／1,000点満点 マネジメント系 300点／1,000点満点 テクノロジー系 300点／1,000点満点</p>

出題範囲とその基本的な考え方

①ストラテジ系

情報化と企業活動に関する分析を行うために必要な基礎的な用語・概念などの知識や、高等学校の情報科目、一般的な新聞・書籍・雑誌などに掲載されている基礎的な用語・概念などの知識を問う問題を出題する。また、身近な業務を把握・分析して課題を解決する手法や、データ分析及び問題解決へのオフィスツールの活用に関する基礎的な知識を問う問題を出題する。

②マネジメント系

システム開発やプロジェクトマネジメントのプロセスに関する基礎的な用語・概念などの知識を問う問題を出題し、専門性の高い具体的な用語・概念などの知識を問う問題は出題しない。また、コンピュータやネットワーク、オフィスツールなどを使って、業務環境の整備を考えるための基本的な知識を問う問題を出題する。

③テクノロジー系

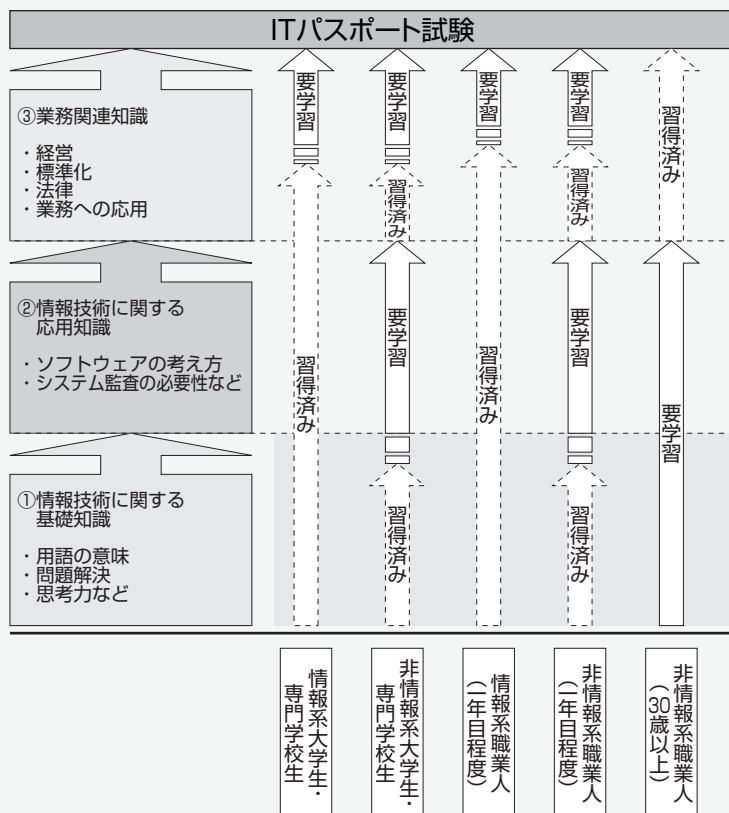
基礎的な用語・概念などの知識や、論理的な思考力を問う問題を出題し、技術的に専門性の高い問題は出題しない。また、身近なシステムの安全な利用に関する基礎的な知識を問う問題を出題する。

●ITパスポート試験の出題範囲

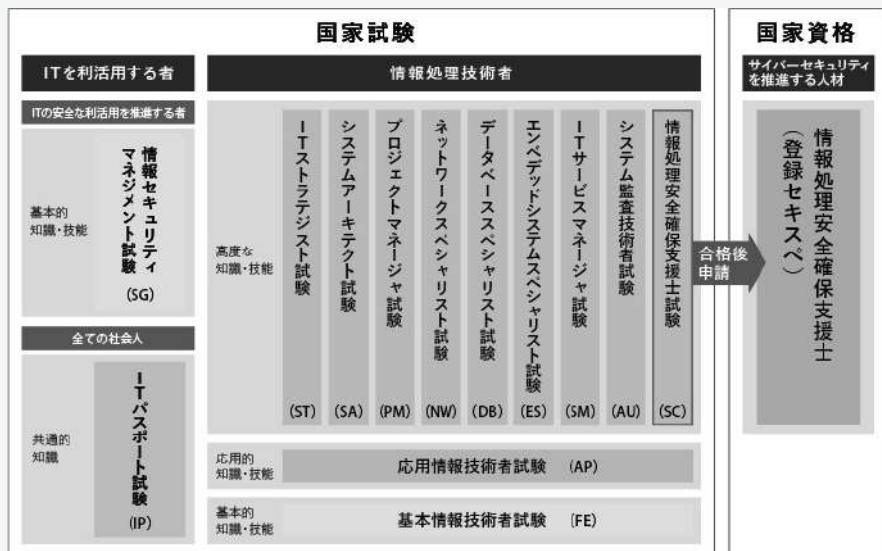
分野	大分類	中分類	
ストラテジ系	1 企業と法務	1	企業活動
		2	法務
	2 経営戦略	3	経営戦略マネジメント
		4	技術戦略マネジメント
		5	ビジネスインダストリ
	3 システム戦略	6	システム戦略
		7	システム企画
マネジメント系	4 開発技術	8	システム開発技術
		9	ソフトウェア開発管理技術
	5 プロジェクトマネジメント	10	プロジェクトマネジメント
	6 サービスマネジメント	11	サービスマネジメント
		12	システム監査

分野	大分類		中分類	
テクノロジー系	7	基礎理論	13	基礎理論
			14	アルゴリズムとプログラミング
	8	コンピュータシステム	15	コンピュータ構成要素
			16	システム構成要素
			17	ソフトウェア
			18	ハードウェア
	9	技術要素	19	情報デザイン
			20	情報メディア
			21	データベース
			22	ネットワーク
23			セキュリティ	

対象受験者層ごとの学習度合いのイメージ



情報処理技術者試験の区分



<試験区分略号の説明>

試験区分名称	略号	英語名称
ITパスポート試験	IP	I[n]formation Technology P[assport] Examination
情報セキュリティマネジメント試験	SG	I[n]formation S[ecurity] Mana[gement] Examination
基本情報技術者試験	FE	F[undamental] I[n]formation Technology E[ngineer] Examination
応用情報技術者試験	AP	A[pplied] I[n]formation Technology E[ngineer] Examination
ITストラテジスト試験	ST	I[n]formation Technology S[tr]ategist Examination
システムアーキテクト試験	SA	S[ystems] A[rchitect] Examination
プロジェクトマネージャ試験	PM	P[roject] M[anager] Examination
ネットワークスペシャリスト試験	NW	N[et] W[ork] Specialist Examination
データベーススペシャリスト試験	DB	D[ata] B[ase] Specialist Examination
エンベデッドシステムスペシャリスト試験	ES	E[mbedded] S[ystems] Specialist Examination
ITサービスマネージャ試験	SM	I[n]formation Technology S[ervice] M[anager] Examination
システム監査技術者試験	AU	S[ystems] A[u]ditor Examination
情報処理安全確保支援士試験	SC	Registered I[n]formation S[e]c[urity] Specialist Examination

問題編

Part 1

ストラテジ系 2

Part 2

マネジメント系 118

Part 3

テクノロジー系 196

Chapter 1 企業活動

演習1-1

ITパスポート 平成21年度春 問22

経営理念を説明したものはどれか。

- ア. 企業が活動する際に指針となる基本的な考え方であり、企業の存在意義や価値観などを示したもの
- イ. 企業が競争優位性を構築するために活用する資源であり、一般的に人・物・金・情報で分類されるもの
- ウ. 企業の将来の方向を示したビジョンを具現化するための意思決定計画であり、長期・中期・短期の別に策定されるもの
- エ. 企業のもつ個性、固有の企業らしさのことで社風とも呼ばれ、長年の企業活動の中で生み出され定着してきたもの

解答編 p350へ

演習1-2

ITパスポート 平成25年度秋 問11

経営理念に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

- ア. 1～2年ごとに見直し、修正するものである。
- イ. 企業の使命や存在意義を表したものである。
- ウ. 経営計画や経営方針を具体化したものである。
- エ. 社是、社訓などに明文化されていないものである。

解答編 p350へ

演習1-3

ITパスポート 令和元年度秋 問12

企業の経営理念を策定する意義として、最も適切なものはどれか。

- ア. 企業の経営戦略を実現するための行動計画を具体的に示すことができる。
- イ. 企業の経営目標を実現するためのシナリオを明確にすることができる。
- ウ. 企業の存在理由や価値観を明確にすることができる。
- エ. 企業の到達したい将来像を示すことができる。

解答編 p350へ

演習1-4 □ □ □

ITパスポート 平成31年度春 問21

コーポレートブランドを高める目的として、最も適切なものはどれか。

- ア. 企業が有する独自のスキルや技術に基づいて、競合他社では提供が不可能な価値を顧客にもたらすことである。
- イ. 企業名などから製品やサービスの品質イメージを連想させることで競争優位性をもたらすことである。
- ウ. 経営者や企業が社会に対して、企業の普遍的な価値観、企業活動の基本的な考え方を公表して、ステークホルダの共感を得ることである。
- エ. 流通業者の主導権のもとで製造業者などと連携して開発し、生産される独自ブランドの商品を低価格で販売することである。

解答編 p350へ

演習1-5 □ □ □

ITパスポート 平成30年度秋 問8

小売業A社は、自社の流通センタ近隣の小学校において、食料品の一般的な流通プロセスを分かりやすく説明する活動を行っている。A社のこの活動の背景にある考え方はどれか。

- ア. CSR
- イ. アライアンス
- ウ. コアコンピタンス
- エ. コーポレートガバナンス

解答編 p350へ

演習1-6 □ □ □

ITパスポート 平成21年度秋 問3

CSRに基づいた活動として、最も適切なものはどれか。

- ア. 原材料の使用量を減らすとともに、消費電力を少なくした製品を提供する。
- イ. 自社製品に新しい機能を付加し、他社製品と差別化した製品を提供する。
- ウ. セル生産方式を導入し、市場の多様なニーズに合わせた製品を提供する。
- エ. 他企業の買収によって、自社がもっていなかった製品を提供する。

解答編 p351へ

演習1-7 □ □ □

ITパスポート 令和元年度秋 問35

持続可能な世界を実現するために国連が採択した、2030年までに達成されるべき開発目標を示す言葉として、最も適切なものはどれか。

- ア. SDGs
- イ. SDK
- ウ. SGA
- エ. SGML

解答編 p351へ

演習1-8

ITパスポート 平成30年度春 問34

企業の業務運営におけるPDCAサイクルのうち、業務の実行状況をKPIに基づいて測定、評価するものはどれか。

- ア. P イ. D ウ. C エ. A

解答編 p351へ

演習1-9

ITパスポート 令和2年度秋 問26

全国に複数の支社をもつ大企業のA社は、大規模災害によって本社建物の全壊を想定したBCPを立案した。BCPの目的に照らし、A社のBCPとして、最も適切なものはどれか。

- ア. 被災後に発生する火事による被害を防ぐために、カーテンなどの燃えやすいものを防炎品に取り替え、定期的な防火設備の点検を計画する。
イ. 被災時に本社からの指示に対して迅速に対応するために、全支社の業務を停止して、本社から指示があるまで全社員を待機させる手順を整備する。
ウ. 被災時にも事業を継続するために、本社機能を代替する支社を規定し、限られた状況で対応すべき重要な業務に絞り、その業務の実施手順を整備する。
エ. 毎年の予算に本社建物の保険料を組み込み、被災前の本社建物と同規模の建物への移転に備える。

解答編 p351へ

演習1-10

ITパスポート 平成27年度秋 問7

地震、洪水といった自然災害、テロ行為といった人為災害などによって企業の業務が停止した場合、顧客や取引先の業務にも重大な影響を与えることがある。こうした事象の発生を想定して、製造業のX社は次の対策を採ることにした。対策aとbに該当する用語の組合せはどれか。

〔対策〕

- a 異なる地域の工場が相互の生産ラインをバックアップするプロセスを準備する。
b 準備したプロセスへの切替えがスムーズに行えるように、定期的にプロセスの試験運用と見直しを行う。

	a	b
ア	BCP	BCM
イ	BCP	SCM
ウ	BPR	BCM
エ	BPR	SCM

解答編 p352へ

演習1-11 □ □ □

ITパスポート 令和4年度 問4

ITの活用によって、個人の学習履歴を蓄積、解析し、学習者一人一人の学習進行度や理解度に応じて最適なコンテンツを提供することによって、学習の効率と効果を高める仕組みとして、最も適切なものはどれか。

- ア. アダプティブラーニング イ. タレントマネジメント
ウ. ディーブラーニング エ. ナレッジマネジメント

解答編 p352へ

演習1-12 □ □ □

ITパスポート 平成26年度春 問20

全国の業務担当者を対象として、販売予測システムの利用方法に関する研修を計画している。研修にeラーニングを利用することで得られるメリットはどれか。

- ア. 業務担当者がシステムの内容を設計担当者から直接受講し、その場で質疑を行える。
イ. 業務担当者が自分の業務の空き時間を利用して、好きなときに受講できる。
ウ. 業務担当者が複数同席し、システムの利用方法について意見を交換できる。
エ. 業務担当者を一堂に集めて、一度で研修できる。

解答編 p352へ

演習1-13 □ □ □

ITパスポート 令和3年度 問26

企業の人事機能の向上や、働き方改革を実現することなどを目的として、人事評価や人材採用などの人事関連業務に、AIやIoTといったITを活用する手法を表す用語として、最も適切なものはどれか。

- ア. eラーニング イ. FinTech
ウ. HRTech エ. コンピテンシ

解答編 p352へ

演習1-14 □ □ □

ITパスポート 平成30年度春 問7

性別、年齢、国籍、経験などが個人ごとに異なるような多様性を示す言葉として、適切なものはどれか。

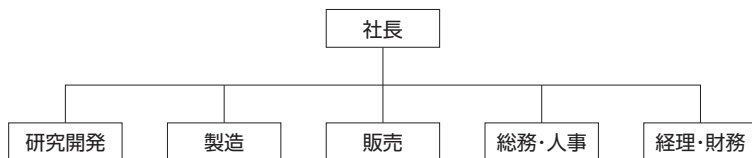
- ア. グラスシーリング イ. ダイバーシティ
ウ. ホワイトカラーエグゼンプション エ. ワークライフバランス

解答編 p352へ

演習1-15

ITパスポート 平成28年度秋 問25

図によって表される企業の組織形態はどれか。



- ア. 事業部制組織
イ. 社内ベンチャ組織
ウ. 職能別組織
エ. マトリックス組織

解答編 p353へ

演習1-16

ITパスポート 平成27年度春 問26

職能別組織を説明したものはどれか。

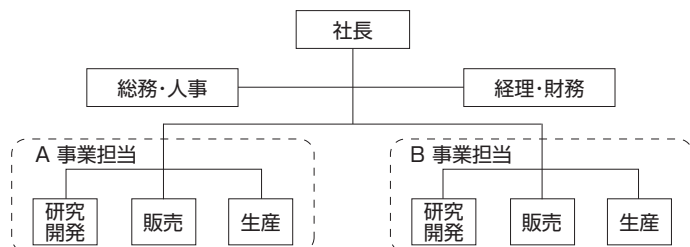
- ア. ある問題を解決するために必要な機能だけを集めて一定の期間に限りて結成し、問題解決とともに解散する組織
イ. 業務を専門的な機能に分け、各機能を単位として構成する組織
ウ. 製品、地域などを単位として、事業の利益責任をもつように構成する組織
エ. 製品や機能などの単位を組み合わせることによって、縦と横の構造をもつように構成する組織

解答編 p353へ

演習1-17

ITパスポート 平成24年度秋 問21

図によって表される企業の組織形態はどれか。



- ア. 事業部制組織
イ. 職能別組織
ウ. プロジェクト組織
エ. マトリックス組織

解答編 p353へ

演習1-18 □ □ □

ITパスポート 平成21年度秋 問9

2人又はそれ以上の上司から指揮命令を受けるが、プロジェクトの目的別管理と職能部門の職能的責任との調和を図る組織構造はどれか。

- ア. 事業部制組織
- イ. 社内ベンチャ組織
- ウ. 職能別組織
- エ. マトリックス組織

解答編 p353へ

演習1-19 □ □ □

ITパスポート 平成28年度春 問34

次の特徴をもつ組織形態として、適切なものはどれか。

- ・組織の構成員が、お互い対等な関係にあり、自律性を有している。
- ・企業、部門の壁を乗り越えて編成されることもある。

- ア. アウトソーシング
- イ. タスクフォース
- ウ. ネットワーク組織
- エ. マトリックス組織

解答編 p354へ

演習1-20 □ □ □

ITパスポート 平成23年度秋 問2

CIOの役割として、最も適切なものはどれか。

- ア. 客観的な立場から、自社の業務に問題がないか、ITの統制が有効に機能しているかなどを監査する。
- イ. 経営戦略を実現するための情報戦略の立案及び実施を主導する。
- ウ. 経営戦略を実現するための人事制度を構築し、勤務の実態を把握するなど管理・運営全般を掌握する。
- エ. 自社の資金効率の向上、及び財務会計の正確性を維持する。

解答編 p354へ

演習1-21 □ □ □

ITパスポート 令和5年度 問7

経営戦略に基づいて策定される情報システム戦略の責任者として、最も適切なものはどれか。

- ア. CIO
- イ. 基幹システムの利用部門の部門長
- ウ. システム開発プロジェクトマネージャ
- エ. システム企画担当者

解答編 p354へ

解答・解説編

Part 1

ストラテジ系 350

Part 2

マネジメント系 435

Part 3

テクノロジー系 487

Chapter 1 企業活動

演習1-1

→別冊テキストP.2

解答ーア

- イ. 経営資源の説明です。
- ウ. 経営計画の説明です。
- エ. 企業文化(経営風土)の説明です。

演習1-2

→別冊テキストP.2

解答ーイ

- ア. 経営計画に関する記述です。
- ウ. 経営課題に関する記述です。
- エ. 社風に関する記述です。

演習1-3

→別冊テキストP.2

解答ーウ

- ア. 経営計画を策定する意義です。
- イ. 経営戦略を策定する意義です。
- エ. 経営目標を策定する意義です。

演習1-4

→別冊テキストP.2

解答ーイ

- ア. コアコンピタンス経営の目的です。
- ウ. CSR活動の目的です。
- エ. プライベートブランド戦略の目的です。

演習1-5

→別冊テキストP.2

解答ーア

- イ. アライアンスは、それぞれの企業が保有する経営資源を補完することを目的とした、企業間での事業の連携、提携や協同行動のことです。
- ウ. コアコンピタンスは、競合他社では提供ができない価値を顧客にもたらし、企業の中核的な力のことです。
- エ. コーポレートガバナンスは、経営者の規律や重要事項に対する透明性の確保、利害関係者の役割と権利の保護など、企業活動の健全性を維持する枠組みのことです。

演習 1-6

→別冊テキストP.2

解答-ア

CSR (Corporate Social Responsibility) とは、「企業の社会的責任」と訳され、企業は利益の追求や必要最小限の法令遵守だけでなく、消費者への適切な対応や環境への配慮、地域社会への貢献などを意識した活動を行う必要性があるという考え方です。

演習 1-7

→別冊テキストP.2

解答-ア

- イ. SDK (Software Development Kit) は、1つのアプリケーションを開発するために必要なプログラムや仕様書などの開発ツール群を意味します。
- ウ. SGA (System Global Area) は、Oracle Database におけるデータベースシステム全体で共有するメモリ領域の呼び名です。
- エ. SGML (Standard Generalized Markup Language) は、文書の構造や意味を定義するマークアップ言語です。

演習 1-8

→別冊テキストP.4

解答-ウ

PDCA は、計画 (Plan)、実行 (Do)、評価 (Check)、改善 (Act) のプロセスを順に実行し、品質の維持・向上、業務改善に結びつける方法です。

演習 1-9

→別冊テキストP.5

解答-ウ

BCP (事業継続計画) は、大規模な災害などによって、企業活動を支える重要な情報システムに障害が発生したような場合でも、企業活動の継続を可能にするために、あらかじめ策定する計画です。

- ア. BCP ではなく、一般的な防災計画です。
- イ. 本社の指示がなくても支社が自らの判断で復旧する手順を整備すべきです。
- エ. BCP ではなく、復旧後に判断すべきことです。

演習1-10

→別冊テキストP.5

解答-ア

BCP (Business Continuity Plan:事業継続計画) は、大規模な災害などによって企業活動に障害が発生する場合に備えて、あらかじめ策定する計画です。

BCM (Business Continuity Management:事業継続マネジメント) は、大規模な災害などによって企業活動に障害が発生する場合に備えてBCPを策定し、BCP実行に必要な資源などを準備し、管理することです。

演習1-11

→別冊テキストP.6

解答-ア

- イ。 タレントマネジメントは、経営資源である人材を有効活用するために、個人の能力に注目し、採用から育成、評価、活用までを管理することです。
- ウ。 ディープラーニングは、人間の脳神経回路をモデル化したニューラルネットワークを用いて、人間の思考と同じような手順で処理を行えるようにする技術です。
- エ。 ナレッジマネジメントは、企業内において個人のもつ知識や情報を全体で共有し有効活用することで、全体の問題解決能力を高める経営手法です。

演習1-12

→別冊テキストP.6

解答-イ

e-ラーニングは、パソコンやネットワークを利用した学習形態で、場所や時を選ばずに個別に学習できるメリットがある反面、講師に直に質問することや、学習者同士で意見交換を行うことはできません。

演習1-13

→別冊テキストP.6

解答-ウ

- ア。 e-ラーニングは、IT技術を活用して行う学習方法の総称です。
- イ。 FinTechは、IT技術を活用して金融業において革新的なサービスを開拓する取り組みです。
- エ。 コンピテンシは、恒常的に成果に結び付けることができる個人の行動や思考特性です。

演習1-14

→別冊テキストP.7

解答-イ

- ア。 グラスシーリング(ガラスの天井)は、組織内での昇進を阻む、人種や性別などの見えない壁のことです。
- ウ。 ホワイトカラーエグゼンプションは、オフィスで働くホワイトカラーと呼ばれる労働者の一部に対して、労働法上の労働時間の規制を緩和することです。
- エ。 ワークライフバランスは、従業員がやりがいをもって業務に取り組めるように仕事と生活の調和を図ることです。

演習1-15

→別冊テキストP.9

解答-ウ

職能別組織は、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織です。

- ア. 事業部制組織は、製品別、顧客別、地域別などによって企業を幾つかのグループに分割し、それぞれのグループごとに利益責任を負う組織です。
- イ. 社内ベンチャ組織は、新しい事業分野に挑戦するために、既存の組織から独立させて編成される組織です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が2つ以上の部門に属し、職能を残しながら業務を遂行する組織です。

演習1-16

→別冊テキストP.9

解答-イ

- ア. プロジェクト組織を説明したものです。
- ウ. 事業部制組織を説明したものです。
- エ. マトリックス組織を説明したものです。

演習1-17

→別冊テキストP.9

解答-ア

- イ. 職能別組織は、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織形態です。
- ウ. プロジェクト組織は、特定の目的を実現するために、必要とされる専門技術や知識をもった人材を集め、臨時的に編成される組織形態です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が職能を残しながら2つ以上の部門に属し、業務を遂行する組織形態です。

演習1-18

→別冊テキストP.9

解答-エ

- ア. 事業部制組織は、製品別、顧客別、地域別などによって企業をいくつかのグループに分割し、それぞれのグループごとに利益責任を負う組織構造です。
- イ. 社内ベンチャ組織は、新しい事業分野に挑戦するために、既存の組織から独立させて編成される組織構造です。
- ウ. 職能別組織は、経理、営業、製造、人事、研究開発などの各人の活動（職能）によって区分編成した組織構造です。

演習1-19

→別冊テキストP.9

解答-ウ

- ア. アウトソーシングは、外部の専門業者に業務の一部又は全部を委託することです。
- イ. タスクフォースは、特定の任務や課題に取り組むために編成される組織です。
- エ. マトリックス組織は、職能別組織と事業部制組織を統合した形で、構成員が職能を残しながら2つ以上の部門に属し、業務を遂行する組織です。

演習1-20

→別冊テキストP.10

解答-イ

- ア. 監査役の役割です。
- ウ. COOの役割です。
- エ. CFOの役割です。

演習1-21

→別冊テキストP.10

解答-ア

CIO(Chief Information Officer:情報統括役員)は、米国型の取締役会の役割の一つで、情報システム部門の最高管理者です。具体的には、自社の情報システムの基盤整備と情報活用能力向上の推進を統括し、経営戦略と情報戦略について、その整合性の確認や評価を行う最高管理者です。

演習1-22

→別冊テキストP.10

解答-イ

CFO(Chief Financial Officer:最高財務責任者)は、投資意思決定、資金調達、経理、財務報告を任務として設置した役員です。

- ア. CTO(Chief Technology Officer:最高技術責任者)が責任をもつ対象です。
- ウ. CIO(Chief Information Officer:最高情報責任者)が責任をもつ対象です。
- エ. CHO(Chief Human resource Officer:最高人事責任者)が責任をもつ対象です。